

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成19年6月14日(2007.6.14)

【公開番号】特開2006-43941(P2006-43941A)

【公開日】平成18年2月16日(2006.2.16)

【年通号数】公開・登録公報2006-007

【出願番号】特願2004-225464(P2004-225464)

【国際特許分類】

B 2 9 C 49/04 (2006.01)

C 0 8 G 69/44 (2006.01)

B 2 9 K 67/00 (2006.01)

B 2 9 L 22/00 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 49/04

C 0 8 G 69/44

B 2 9 K 67:00

B 2 9 L 22:00

【手続補正書】

【提出日】平成19年4月23日(2007.4.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0079

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0079】

[製造例1](ポリマーAの製造)

P-ヒドロキシ安息香酸345重量部、6-ヒドロキシ-2-ナフトエ酸175重量部、酢酸カリウム0.02重量部、無水酢酸350重量部を、各々攪拌機及び留出管を備えた反応機に仕込み、十分に窒素置換した後、常圧下で150℃まで温度を上げ、攪拌を開始した。150℃で30分攪拌し、さらに徐々に温度を上昇させ、副生する酢酸を留去した。温度が300℃に達したところで、徐々に反応器中を減圧させ5 torrの圧力で1時間攪拌を続け、目標の攪拌トルクに達した時点で、反応器下部の排出孔を開け、窒素圧を使って樹脂をストランド状に取り出した。排出されたストランドをペレタイザによる粒子状にした。この全芳香族ポリエステル液晶樹脂(ポリマーA)の融点は280℃、300℃の溶融粘度は35 Pa・sであった。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0080】

[製造例2](ポリマーBの製造)

P-ヒドロキシ安息香酸173重量部、6-ヒドロキシ-2-ナフトエ酸38重量部、4,4'-ジヒドロキシビフェニル52重量部、テレフタル酸65重量部、4-アセトアミノフェノール17重量部、酢酸カリウム0.04重量部、無水酢酸221重量部を、各々攪拌機及び留出管を備えた反応機に仕込み、十分に窒素置換した後、常圧下で150℃まで温度を上げ、攪拌を開始した。150℃で30分攪拌し、さらに徐々に温度を上昇させ、副生する酢酸を留去した。温度が350℃に達したところで、徐々に反応器中を減圧

させ5 t o r rの圧力で1時間攪拌を続け、目標の攪拌トルクに達した時点で、反応器下部の排出孔を開け、窒素圧を使って樹脂をストランド状に取り出した。排出されたストランドをペレタイザによる粒子状にした。この全芳香族ポリエステル液晶樹脂（ポリマーB）の融点は300、320の溶融粘度は25 Pa・sであった。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

[製造例3]（ポリマーCの製造）

P - ヒドロキシ安息香酸285重量部、6 - ヒドロキシ - 2 - ナフトエ酸30重量部、4,4' - ジヒドロキシビフェニル80重量部、4 - アセトアミノフェノール25重量部、テレフタル酸100重量部、酢酸カリウム0.07重量部、無水酢酸350重量部を、各々攪拌機及び留出管を備えた反応機に仕込み、十分に窒素置換した後、常圧下で150まで温度を上げ、攪拌を開始した。150で80分攪拌し、さらに徐々に温度を上昇させ、副生する酢酸を留去した。温度が350に達したところで、徐々に反応器中を減圧させ5 t o r rの圧力で1時間攪拌を続け、目標の攪拌トルクに達した時点で、反応器下部の排出孔を開け、窒素圧を使って樹脂をストランド状に取り出した。排出されたストランドをペレタイザによる粒子状にした。この全芳香族ポリエステル液晶樹脂（ポリマーC）の融点は340、360の溶融粘度は10 Pa・sであった。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0082】

[製造例4]（ポリマーDの製造）

P - ヒドロキシ安息香酸93重量部、6 - ヒドロキシ - 2 - ナフトエ酸79重量部、4,4' - ジヒドロキシビフェニル39重量部、4 - アセトアミノフェノール13重量部、テレフタル酸49重量部、酢酸カリウム0.02重量部、無水酢酸167重量部を、各々攪拌機及び留出管を備えた反応機に仕込み、十分に窒素置換した後、常圧下で150まで温度を上げ、攪拌を開始した。150で30分攪拌し、さらに徐々に温度を上昇させ、副生する酢酸を留去した。温度が350に達したところで反応器中を減圧させ、圧力が5 t o r rに達した時点からさらに30分攪拌し、反応器下部の排出孔を開け、窒素圧を使って樹脂をストランド状に取り出した。排出されたストランドをペレタイザによる粒子状にした。この全芳香族ポリエステル液晶樹脂（ポリマーD）の融点は215、230の溶融粘度は80 Pa・sであった。